

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成21年度技術情報第18号(施設野菜類の灰色かび病)について (送付)

下記のとおり情報を取りまとめましたので送付します。

11月中旬の日照不足等により、施設野菜の灰色かび病が早い時期から発生しています。今後とも発生しやすい条件が続くと予想されるので、湿度対策を十分行い防除を徹底してください。

1 対象作物 施設野菜類 (トマト, イチゴ, ピーマン, キュウリ, サヤインゲン等)

2 対象病害虫 灰色かび病

3 予報内容

(1) 発生地域 県本土

(2) 発生時期 早い

(3) 発生量 多

4 予報の根拠

(1) 11月の巡回調査で、イチゴとキュウリにおける発生ほ場率は平年または前年より高かった(図1, 2, 表1)。

(2) 例年12月以降発生が増加するが、本年は11月から増加傾向にある。

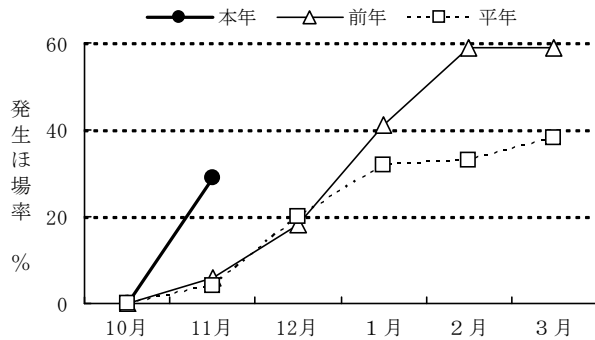


図1 灰色かび病の発生推移 (イチゴ)

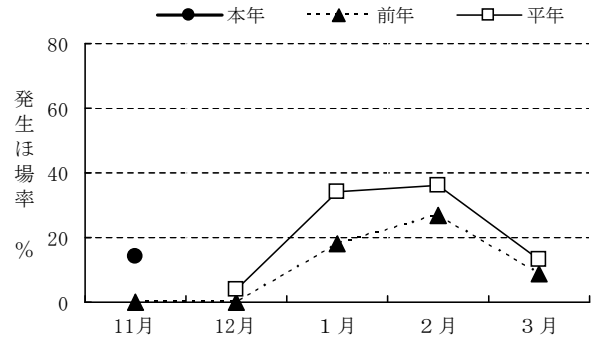


図2 灰色かび病の発生推移 (キュウリ)

表1 灰色かび病の発生ほ場率 (%)

作物名	本年	平年	前年
ピーマン	0	5	17
キュウリ	14	—	0
トマト	0	0	6
イチゴ	29	4	0

11月中～下旬調査

5 防除上注意すべき事項

(1) 暖房機の稼働時間が少ないと、ハウス内が過湿になりやすいので、換気または循環扇や暖房機の送風機能等を利用して湿度低下を図る。

(2) 発病葉・果実はこまめにほ場外へ持ち出して処分し、菌密度の低下を図る。サヤインゲンでは登録農薬が少ないので、発病部位の除去と早期防除を徹底し、農薬使用回数の低減を図る。

(3) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤とのローテーション散布を行う。